

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年5月18日(2006.5.18)

【公表番号】特表2002-507600(P2002-507600A)

【公表日】平成14年3月12日(2002.3.12)

【出願番号】特願2000-537853(P2000-537853)

【国際特許分類】

C 0 7 D 211/70 (2006.01)

A 6 1 K 31/44 (2006.01)

A 6 1 K 31/4406 (2006.01)

A 6 1 K 31/4409 (2006.01)

A 6 1 K 31/445 (2006.01)

A 6 1 K 31/4462 (2006.01)

A 6 1 K 31/4465 (2006.01)

A 6 1 K 31/454 (2006.01)

A 6 1 K 31/4545 (2006.01)

A 6 1 P 7/02 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

C 0 7 D 211/34 (2006.01)

C 0 7 D 401/12 (2006.01)

C 0 7 D 409/14 (2006.01)

【F I】

C 0 7 D 211/70

A 6 1 K 31/44

A 6 1 K 31/4406

A 6 1 K 31/4409

A 6 1 K 31/445

A 6 1 K 31/4462

A 6 1 K 31/4465

A 6 1 K 31/454

A 6 1 K 31/4545

A 6 1 P 7/02

A 6 1 P 9/10

C 0 7 D 211/34

C 0 7 D 401/12

C 0 7 D 409/14

【手続補正書】

【提出日】平成18年3月20日(2006.3.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

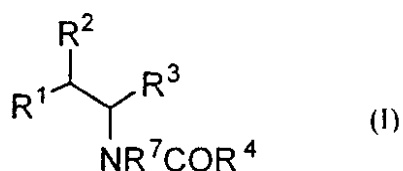
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

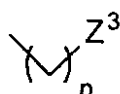
【請求項1】 式

【化91】



「式中、 R^1 は、式

【化 9 2】



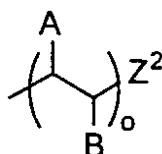
の基であり、

n は、 0 、 1 または 3 であり、

R^2 は $-CO_2R^5$ であって、ここで R^5 は、水素または鎖中に1～4個の炭素原子を有する直鎖状もしくは分枝状のアルキルであり、

R³ は、アルキル、または、

【化 9 3】



であって、

ここでアルキルは、鎖中に 1 ~ 4 個の炭素原子を有する直鎖状または分枝状であり、

Z² は、フェニルであり、

A および B は、水素または一緒になって結合であり、

α は、1 または 2 であり、

R⁴は、場合により置換されたシクロアルキル、場合により置換されたフェニル、場合により置換された（フェニル置換されたフェニル）、または場合により置換された（フェニル置換されたヘテロアリール）であり、

ここでシクロアルキルは、3 ~ 10 個の炭素原子を有する、非芳香族性の単環式または多環式の環構造であり、

ここで場合により置換されるのは、ハロ、アルコキシ、 $Y^1 Y^2 N$ -アルキル-、 $Y^1 Y^2 NCO$ -、およびオキソ($O=$)であり、

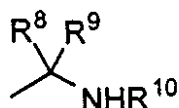
ここでヘテロアリールは、ピラジニル、フラニル、チエニル、ピリジル、ピリミジニル、イソオキサゾリル、イソチアゾリル、オキサゾリル、チアゾリル、ピラゾリル、フラザニル、ピロリル、ピラゾリル、トリアゾリル、1,2,4-チアジアゾリル、ピリダジニル、キノキサリニル、フタラジル、イミダゾ[1,2-a]ピリジン、イミダゾ[2,1-b]チアゾリル、ベンゾフラザニル、インドリル、アザインドリル、ベンゾイミダゾリル、ベンゾチエニル、キノリニル、イミダゾリル、チエノピリジル、キナゾリニル、チエノピリミジル、ピロロピリジル、イミダゾピリジル、イソキノリニル、ベンゾアザインドール、および1,2,4-トリアジニル基から選ばれた基であり、

ここで Y¹Y²N - は、アミノ、メチルアミノ、ジメチルアミノ、ジエチルアミノ、ピロリジン、ピペリジン、ベンジルアミノおよびフェネチルアミノ基から選ばれた基であり、

R⁷ は、水素であり、

Z³は、ジヒドロピリジン、テトラヒドロピリジン、またはピペリジンであり、ここでジヒドロピリジン、テトラヒドロピリジン、およびピペリジンは非置換または式

【化 9 4】



(ここで、 R^{10} は水素、 $HO-$ 、または $R^{12}O_2C-$ であり、ならびに R^8 および R^9 は水素または一緒になって $=NR^{11}$ であり、ならびに R^{11} は水素であり、ここで R^{12} は鎖中に1～4個の炭素原子を有する直鎖状または分枝状のアルキルである)部分により置換されている]

の化合物、またはその医薬上許容しうる塩。

【請求項2】 R^8 および R^9 が一緒になって $=NR^{11}$ であり、 R^{10} および R^{11} が、独立して水素、 $HO-$ 、または $R^{12}O_2C-$ であり、そして R^{12} が、請求項1で定義した通りである、請求項1に記載の化合物。

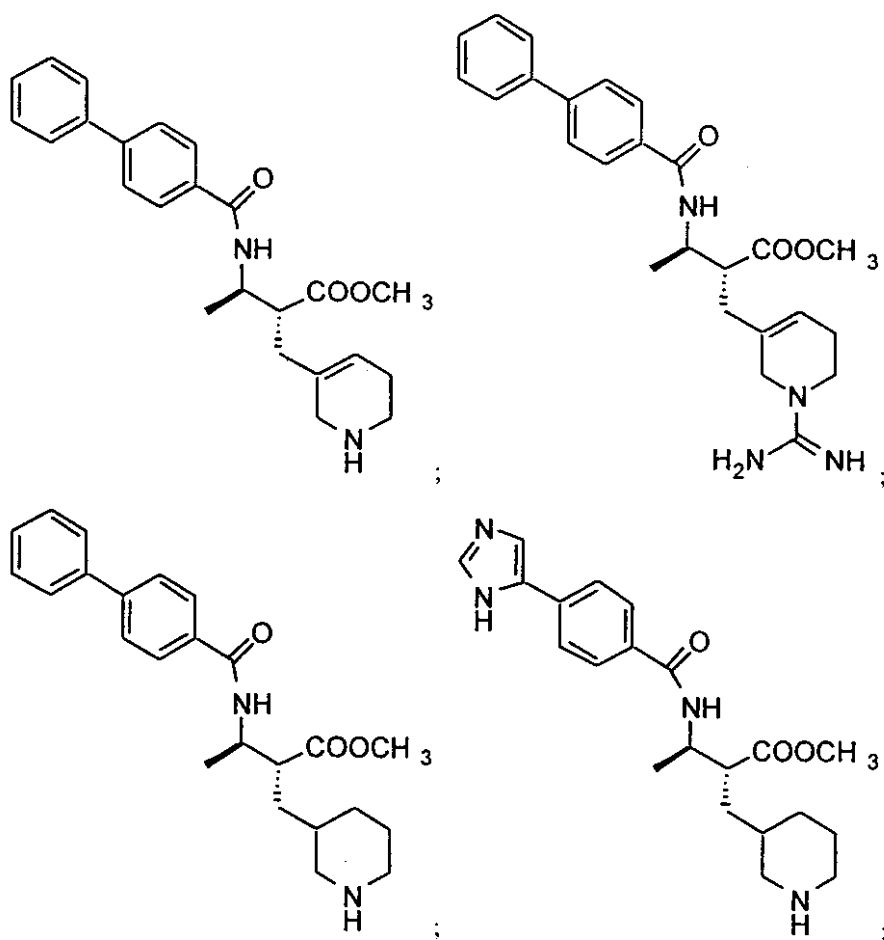
【請求項3】 R^8 および R^9 が、水素である、請求項1に記載の化合物。

【請求項4】 n が1である、請求項1に記載の化合物。

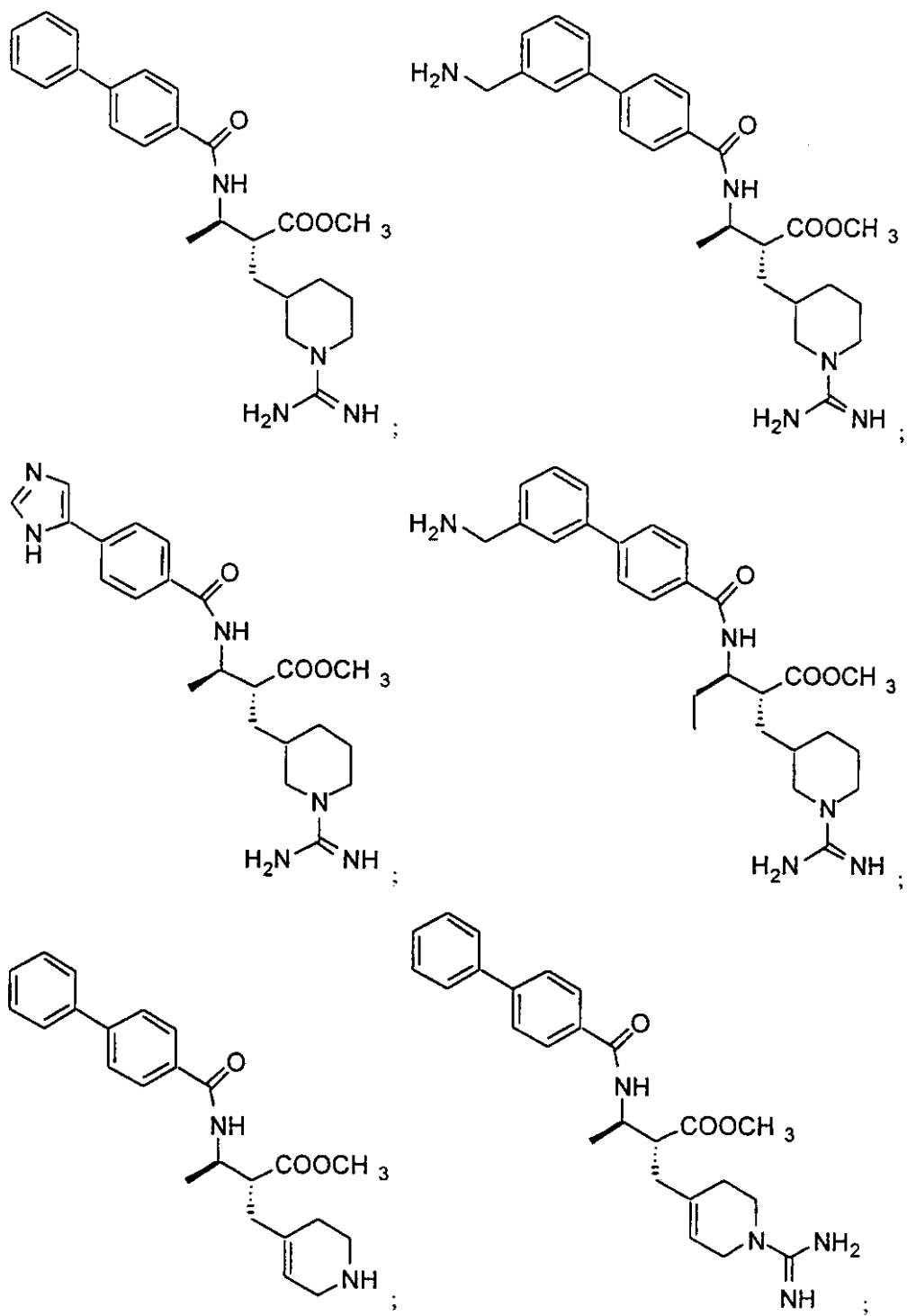
【請求項5】 Z^3 が、 Z^3 が分子の残りに付いている位置に対して Z^3 の環構造のメタまたはパラ位でアミノ基により置換されている、請求項1に記載の化合物。

【請求項6】

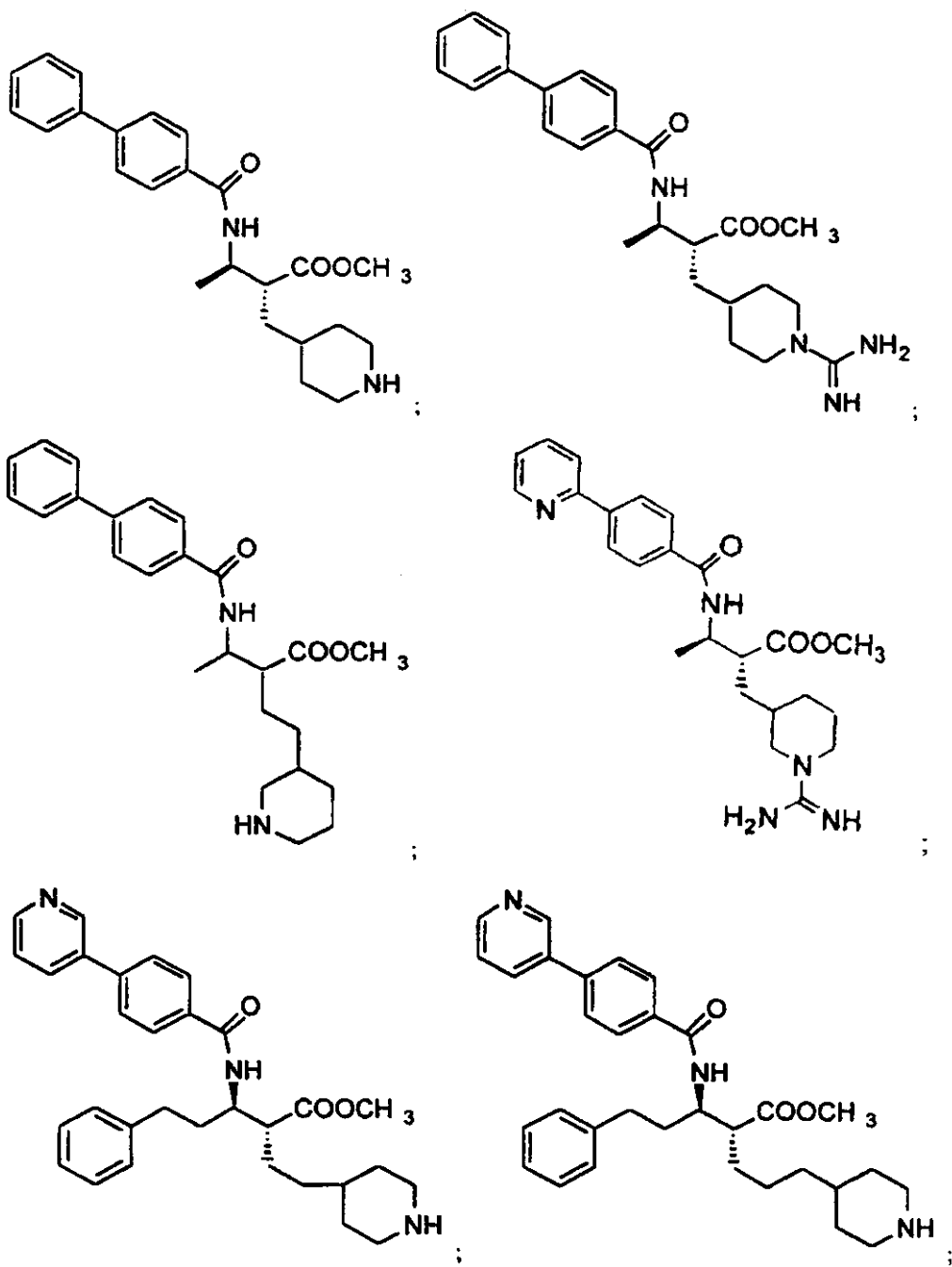
【化95】



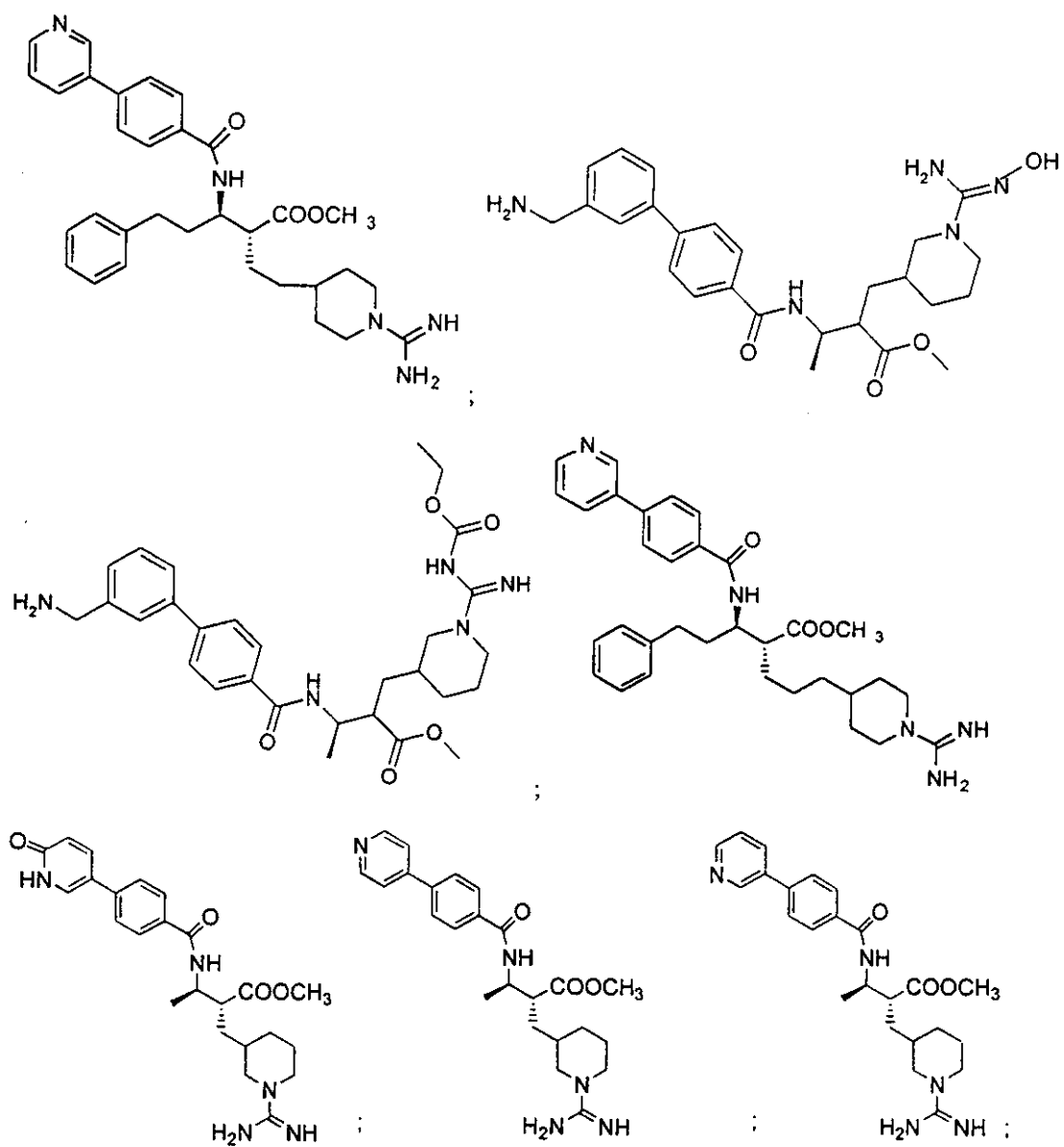
【化96】



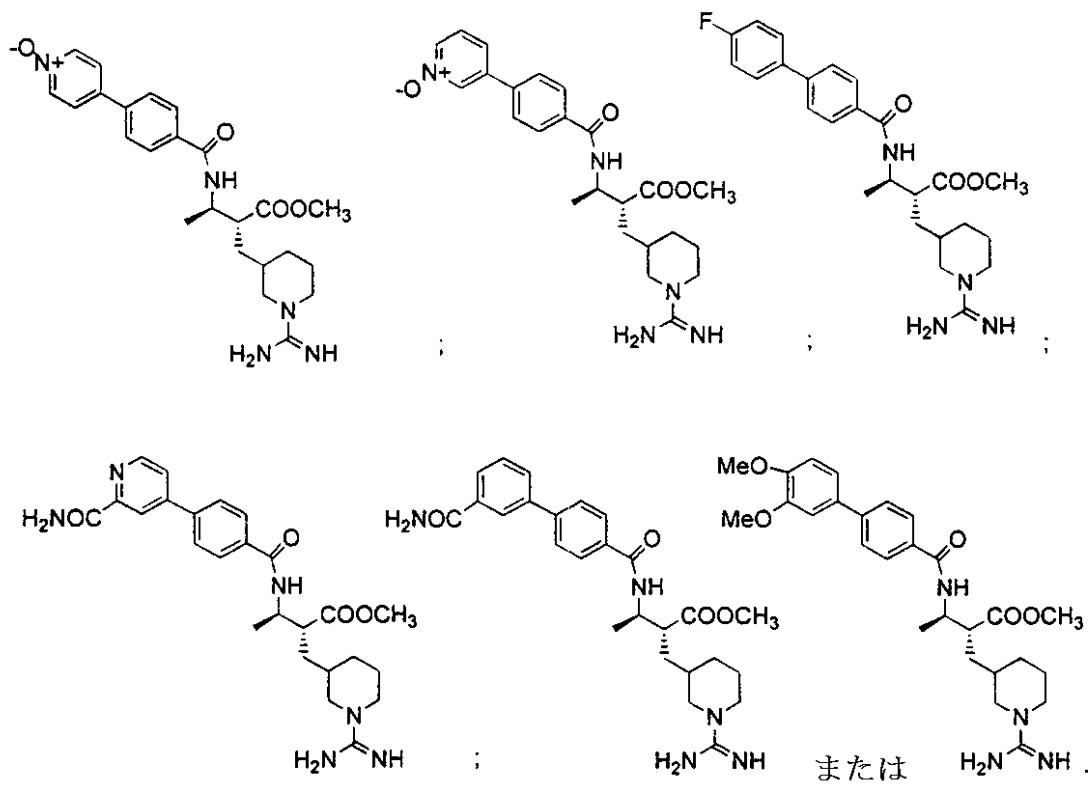
【化 9 7】



【化 9 8】



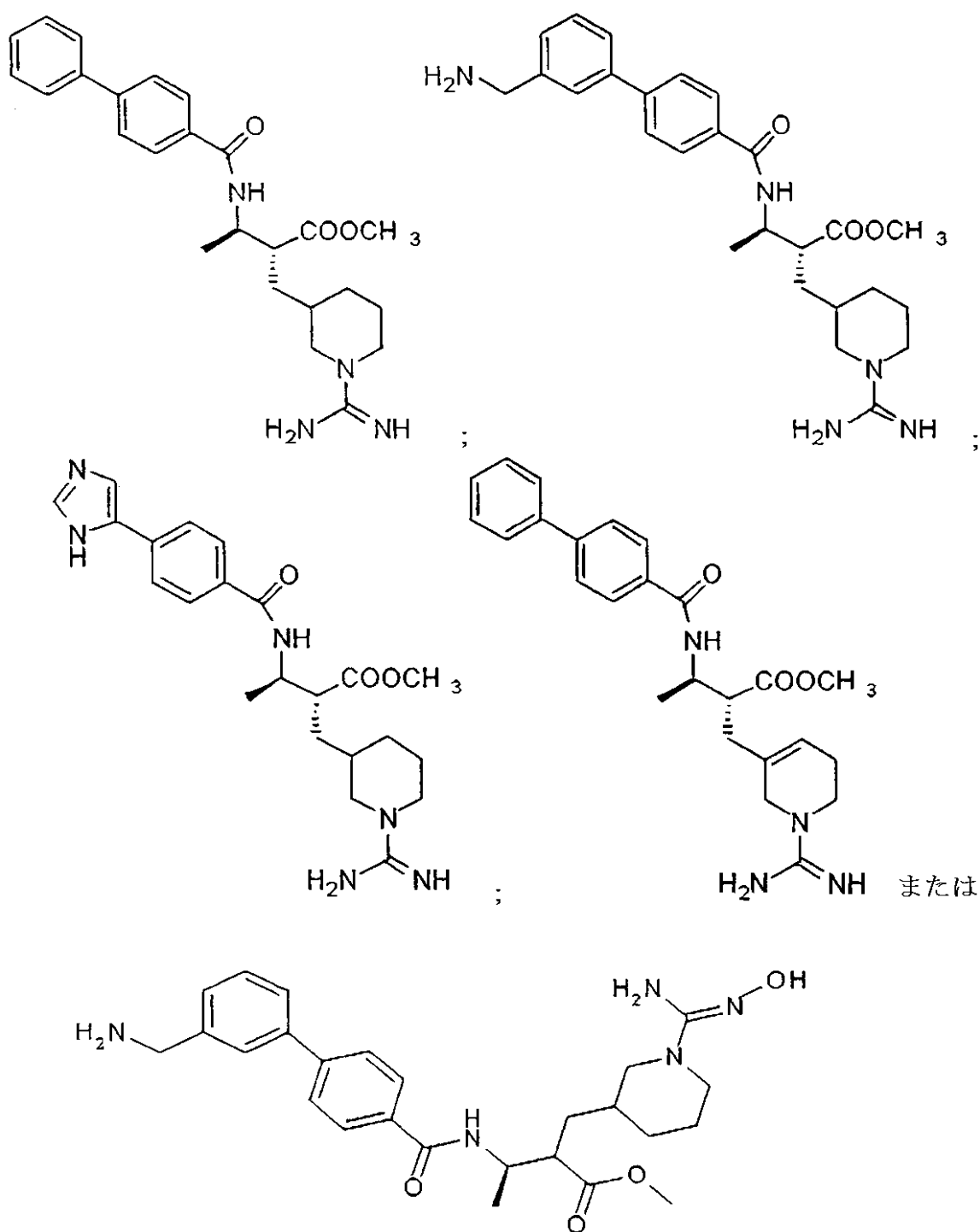
【化 9 9】



である、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 7】

【化 100】



である、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 8】 医薬上許容しうる量の請求項 1 に記載の化合物、および医薬上許容しうる担体からなる医薬組成物。

【請求項 9】 急性心筋梗塞症、不安定狭心症、血栓塞栓症、血栓溶解療法および経皮経管冠動脈形成術と関連する緊急の血管閉鎖、一過性脳虚血発作、卒中、間欠性跛行および冠状動脈もしくは末梢動脈のバイパス移植の治療のための、または、血管腔狭窄症（再狭窄）、静脈血管系、腹部、膝および股関節部の手術の後の下肢静脈においてしばしば生じる病的な血栓形成、深部静脈血栓症、もしくは全身性播種性血管内凝固症の予防のための医薬の製造における請求項 1 ～ 7 のいずれかに記載の式（I）の化合物の使用。